

1 愛し合う二人

愛し合う二人は苔むした泉のほとりで 黒髪と金色の髪が絡み合うほどに やわらかな頬をよせ合って つぐみたちの恋の歌を聞いていた ああ 芽吹きのとときよ ああ 幸せな恋の季節よ	5
結ばれた二人が教会から出てきた 祝福の鐘の音が鳴り響き 羽で扇ぐように微かに風がそよぐ 二人の行く路をそっと白い花びらが覆っていた ああ 澄んだ瞳の花嫁よ ああ 晴れやかな眼差しよ	10
ゆりかごを覗き込む二人 赤ん坊のあたまの上で互いの手をかたく握り 睦まじくゆりかごを揺らしながら 愛より授かりし命を見つめる ああ 穢れなき時間よ ああ 秘められし力よ	15
夕暮れ時の暖炉のそば 親となった二人 炎がその膝元にたゆたい 百合の蕾が膨らむようにゆっくりと育つ 幼な子たちのあたまを照らした ああ じっと見守る日々よ ああ 愛おしくも忙しない日々よ	20
二人は変わらず暖炉のそばに座っている 炎が二人の膝元を赤く染める ゆっくりと育った子どもたちも それぞれ巣立ち 二人の元を去っていった ああ 疾く過ぎゆく日々よ ああ 二度と戻らぬ月日よ	25 30

暖炉の炎が床を赤く染め
二人の間をますます広く見せていた
二人は椅子を寄せて並べ
老いた頬をよせ合って願う 「いま再び」
ああ 愛しき思い出よ
ああ 今も忘れられぬ日々よ

35

(宮原牧子訳)